

県庁舎で営巣しているハヤブサのヒナ誕生について

県庁舎で営巣している県絶滅危惧種のハヤブサについて、平成26年から4年連続でヒナの誕生が確認されました。

1 ふ化について

平成29年4月24日（月）、営巣中のハヤブサから5羽のヒナが誕生したことを職員が確認しました。

- ・平成29年は、3月22日（水）に5個の産卵を確認していましたが、すべてふ化に至りました。
- ・平成28年度も5個の産卵ならびに5羽のヒナ誕生が確認されていましたが、鳥類の専門家によれば、2年連続で5個の産卵ならびに5羽のヒナ誕生は、全国的にも稀れとのこと。※通常は3～4個の産卵

2 ハヤブサについて

ハヤブサ科。

希少種カテゴリー：県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類、国レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類。国内希少野生動植物種。

生態：海岸部の生態系の頂点に位置する鳥。県内では能登半島と加賀地方の海岸で繁殖。

3 県庁舎でのハヤブサの営巣

ハヤブサは、高所から獲物（鳥など）を探ることができる海岸近くの断崖に営巣する習性があり、県庁舎の高層階のベランダは、ハヤブサの営巣場所に適していたと考えられます。

- ・県庁舎では平成17年から産卵が確認されていたもので、平成26年に初めて繁殖に成功し、3羽のヒナが生まれ、無事に巣立ちしました。
- ・平成27年には4羽のヒナが、平成28年には5羽のヒナが誕生し、巣立ちしています。
- ・県では、繁殖成功に向け、専門家の指導を受け、ベランダに砂を敷き、また窓のブラインドを下ろし刺激しないようにするなど留意をしてきました。
- ・今回のヒナ誕生については、自然環境課ホームページにて紹介しています。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/index.html>

4 取材について

ヒナの保護の観点からマスコミの現地取材は、ご遠慮下さい。

※写真及び動画データを提供します。必要な社はご連絡下さい。

（連絡先：生活環境部自然環境課 外線 076-225-1476/内線 4264）



ヒナと親鳥（平成29年4月24日撮影）



ヒナに餌やりをする親鳥（平成29年4月24日撮影）